

行政視察等報告書

平成30年11月13日

米子市議会議長様

会派名 政英会

代表者氏名 尾 沢 三 夫

提出者氏名 奥 岩 浩 基



下記のとおり報告します。

記

項 目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	尾沢三夫、戸田隆次、田村謙介、岡田啓介、奥岩浩基
期 日	平成30年11月5日から平成30年11月6日まで
〔概 要〕（年月日・場所・内容）	平成30年11月5日 エコパークかごしま（鹿児島県薩摩川内市） 「産業廃棄物最終処分場エコパークかごしま」に ついて 11月6日 大分県大分市「企業誘致・立地支援について」
〔所 感〕	別紙のとおり
経 費	旅費総額 320,320円

エコパークかごしま「産業廃棄物最終処分場エコパークかごしま」について

1. 視察日時 平成30年11月5日(月)14時~16時
2. 視察場所 エコパークかごしま(公共関与による産業廃棄物最終処分場)
3. エコパークかごしま設置管理者 公益財団法人 鹿児島県環境整備公社
4. 本体工事費 約96億円
5. 維持管理経費 約4億円/年
 - ・埋立終了後の維持管理計画については、15年想定
 - ・維持管理経費は、処理料金より基金に積立てする
6. 処理対象物処理料金 平均一約22,000円
7. 財源内訳
 - ・国、県各18.5億円補助 59億円(起債一償還15年)
8. 最終処分場の概要
 - 1) 整備地 鹿児島県薩摩川内市川永野町
 - 2) 埋立地面積 約40,700m²
 - 3) 埋立容量 約84万m³
 - 4) 廃棄物の埋立容量 約60万m³
 - 5) 埋立期間 約15年間
 - 6) 受入れ対象物
 - ・燃え殻・汚泥・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残渣・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・鋳さい・がれき類・ばいじん・13号廃棄物(廃石膏ボード,石綿含有廃棄物含む)

9. 主要施設の概要

- 1) 覆蓋施設 屋根の面積 約44,000m² 標高118.8~121.5m
埋立地内の柱本数—5本 埋立地外の柱本数—105本
- 2) 遮水構造 メタロセン系遮水シート(2重) 水密アスファルトコンクリート、ベントナイト混合土 不織布(2層)及び中間覆土、漏水検知システム
自己修復材(GCL)
- 3) 浸出水排水システム 地下水・湧水集排水施設、雨水集排水施設
- 4) 管理棟、計量棟、洗車設備、防災調整池

10. 施設の特徴

1) 履蓋施設(埋立地全体を屋根で覆う)の設置

① 施設構造

- ・ 建築基準法に基づき耐震性を確保
- ・ 構造はガルバリウム鋼板を使用し、キールトラスの延長は最大327m、幅176mで屋根面積は概ね東京ドームと同程度の大きさである。
- ・ 埋立地内の5本柱は、直径1.2mのコンクリート充填鋼管構造で、その外側を直径1.5mのコルゲート管で保護し、作業によるシート損傷等を防止すると共に、浸出水が集まりやすい範囲には配置しない事としている。

② 効果について

- ・ 埋立地内への雨水の流入や粉塵・臭気の周囲への飛散及び拡散を防止。
- ・ 天候に左右されないので、計画的な散水により廃棄物の早期安定化が図れる。
- ・ 埋立地内にある5本の支柱の間隔は、最小61.5m、最大139.5mあり、廃棄

物を埋め立てる作業がしやすい空間を確保している。

2) 施設内における水の循環型システムの構築

- ・ 水処理施設から排水される水は散水用として再利用する。
- ・ 水処理施設から排水される水は一切外部へ放流しない。
- ・ 施設からの排水は、雨水のみである。

11. クローズド型最終処分場を採用した理由

エコパークかごしまを建設する前に、最終処分場の建設計画を4ヶ所検討したが、地元の合意形成に至らず、今後については施設内の排水を場外に放流しない方式を採用し、地元住民の理解が得られやすい環境づくり形成すべく、知事がクローズド型方式導入を決断し議会の賛同を得たとの事。

12. 地域振興対策について

- ・ 上水道整備工事一約 3.6 億円
- ・ 河川及び道路整備工事一約 16 億円

13. 地元要望について

- ・ 地元住民による地域連絡協議会を設置し、年2回同協議会と意見交換会を開催
- ・ 安全監視委員会設置
- ・ 最終処分場安全協定締結

14. 考察

産業廃棄物最終処分場の建設については、施設周辺関係住民の合意形成が求められます。一方その合意形成については、全国的に円滑的な事務推進が図られていない状況下であります。その要因は最終処分場の安全性・施設内から放流される排水

による環境影響が危惧される事が主な理由と思料されます。

最終処分場の排水放流対策については、施設内浸出水処理施設の高度処理により放流水の無害化を図る方式と、この度視察したエコパークかごしまが採用している、クローズドシステム（施設内の水は循環型再利用）・ドーム型（屋根で処分場を覆蓋）により、一切場内の水は場外へ放流しない方式が想定されます。クローズドシステム・ドーム型最終処分場の建設立地については、全国的に少なくその要因はイニシャルコストが高く、ドームの撤去費も別途見込む必要があるとの事。しかしながら施設の安全性、廃棄物の飛散・臭気対策については、相当の効果があると認識した。

最終処分場の浸出水放流対策については、末端の水処理施設の高度化を図り放流する方式と、クローズド・ドーム型による一切放流しない方式の何れかと推察する。最終処分場の建設については、施設の安全性確保が最重要であります。一方イニシャルコスト・ランニングコストは処理料金に連動するものと思料されます。最終処分場の建設については、安全性の確保が最重要であり多角的見地から十分に検討していきたいと思料します。

大分県大分市「企業誘致・立地支援について」

1. 視察日時 平成 30 年 11 月 6 日 午後 1 時 30 分より午後 3 時まで
2. 視察場所 大分県大分市
3. 視察項目 「企業誘致・立地支援について」
4. 大分市の人口 478,146 人 (米子市 149,313 人の 3 倍以上)
5. 面積 502.3k m² (米子市 132.42k m²の 3.8 倍)
6. 製造品出荷額等 2 兆 8,101 億 2,707 万円 (H28 年度全国 14 位、九州 1 位)

(米子市 1,507 億 7,600 万円の約 20 倍)

7. 主な立地企業

旭化成大分工場、王子マテリア株式会社大分工場、大分キャノン株式会社、大分キャノンマテリアル株式会社、昭和電工株式会社大分コンビナート、新日鐵住金株式会社大分製鐵所、JXTG エネルギー株式会社大分製油所、住友株式会社大分工場、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社大分テクノロジーセンター、大日本住友製薬、ジャパンセミコンダクター、パンパシフィック・カッパー株式会社佐賀関製鉄所、株式会社三井 E&S マシナリー大分工場、
他

8. 所感・考察

大分県大分市は昭和30年代に新産業都市の指定を受けて以降、鉄鋼・石油化学の等の重工業集積都市として発展してきた。国内外への船便が多く（RORO船、コンテナ船）、東九州の玄関口としての機能も担い、さらには高速道路や鉄道などの主要幹線道が合流する地域でもある為、大分市から九州全土にアクセスが容易である。近隣に国立大学や私立大学、短期大学、専門学校、工業高等専門学校があり、企業からも若者が出ていかない市として魅力があり、東京都や福岡県と比べても地価が安価である。

近年の企業誘致の取組としては、各都市が行っている補助制度、助成制度では、九州内でも上限が高く、加えて回数制限のない助成金のリピーター率も高く、市として力を入れている企業立地後のアフターフォローの成果が伺える。また子育て環境の整備により労働者の生活環境整備も充実している。さらには、PR活動にも力を入れており、東京のYahoo 本社の食堂で特産品を期間限定で社食提供した点、大分市出身の有名人大使起用も反響が大きく知名度のアップに貢献している。企業立地に向かう特筆すべき取組としては、東京事務所を設置し常駐の職員（2名体制に増員）と大分市のチーム（5人体制）が連携し情報

共有や都市部での積極的な誘致活動を行っており、近年連続して2桁(概ね17
■ 18件)の企業誘致実績に繋がっている。また、昨年度は1400社に対して立
地アンケートを送付し、そのうちの約20社が立地希望、約100社が立地検討と
しており、様々な取組を行っている。企業立地のツールとして18ページにわた
る資料も、交通アクセス、市の紹介、子育て環境、補助・助成制度、人口や工
業状況、賃金等、多岐にわたり、企業側が欲しい情報が見やすくまとめられて
いる。

米子市の人口の約3倍の都市の大分市であるが、製造品出荷額等においては
約20倍と圧倒的な違いがあった。主なものは世界シェア5割のスマホカメラの
部品を扱う企業と伺ったが、市としては九州1位を常に維持する方向で攻めの
取組が続いていると見受けられた。前述した船便のRORO船だが、今年度より
3航路、週に11便と増便となり九州最大となっている。

数値的目標を持ち、現状に満足することなく常に新しい施策を実施し、また
企業側の目線にたった取組が、九州の東の玄関口としての機能を最大限に活
かした都市づくりに繋がっている市であった。立地の取り掛かりとしてのPR活
動も同時に積極的に行っていることも少なからず連続2桁の企業立地に寄与し

ていると考える。この度の視察で伺った大分市の取組については、山陰の交通の要所である本市においても大いに参考すべきものであると感じた。

視察行程 会派：^{せいえいかい}政英会【 尾沢三夫、戸田隆次、田村謙介、岡田啓介、奥岩浩基（5名） 】

月 日	行 程	宿 泊 地
11/5 (月)	7:28 伯耆大山駅 ===== 9:38 岡山駅 ===== 10:08 川内駅・・・・・・エコパークかごしま JR 特急やくも 6号・岡山行 JR 新幹線さくら 549号・鹿児島中央行 タクシー	【宿泊先】 ダイワロイネットホテル小倉駅前 （北九州市小倉北区魚町1丁目5-14） ☎093-513-7580
	エコパークかごしま視察 午後2時00分ごろから2時間程度 エコパークかごしま 【調査項目】 産業廃棄物管理型最終処分場「エコパークかごしま」について 電話：0996-21-1220	
	エコパークかごしま・・・・川内駅 ===== 16:45 小倉駅 タクシー JR 新幹線みずほ 616号・新大阪行	
11/6 (火)	11:09 小倉駅 ===== 12:36 大分駅 JR 特急ソニック 15号・大分行	
	大分市行政視察 午後1時30分ごろから1時間半程度 議会事務局 【調査項目】 企業誘致・立地支援について 電話：097-537-5644	
	15:45 大分駅 ===== 17:03 小倉駅 ===== 17:27 岡山駅 ===== 18:52 19:04 伯耆大山駅 JR 特急ソニック 42号・博多行 JR 新幹線のぞみ 54号・東京行 JR 特急やくも 25号・出雲市行	

